

昆虫

日本には約 3 万種類の昆虫が記録されており、島根県ではおよそ 5,500 種類が記録されているが、実際にはほぼその倍が生息していると考えられている。種は様々で主な生息地がかなり北や南である昆虫も含まれる。日本の北部からの種はコガネムシ科のオオチャイロハナムグリや、背中に黒とオレンジの鮮やかな模様がある大型のアカエゾゼミがいる。日本南部でよくみられる種にはオオキンカメムシと、オレンジのトゲに覆われた幼虫が上品な黄色と深緑の蛾に変身するオキナワフルリチラシがいる。

三瓶山を囲む草原には島根でも珍しい昆虫がいくつか生息し、開放的な花咲く原野に適合している。しかしながらこれらの昆虫たちを支える生息地はだんだんまれになってきている。三瓶山付近の東側、まだ牛が放牧されている 2 つの野原の内の 1 つには絶滅危惧種のダイコクコガネがいる。この黒くて光沢があり、がっしりとした体つきのコガネムシは体長 20~28 ミリで、自身の何倍もの重さの物を転がすことができる。草原の牛の排泄物を餌とし、また、メスは排泄物の中に産卵し、卵から孵化した幼虫はすぐに餌にありつける。

三瓶山の森には昆虫の様子が見られる場所が他にもある。クヌギやコナラの幹はあらゆる種類の昆虫を引き付ける栄養豊富な樹液を分泌する。日中、蝶々、スズメバチ、メタリックグリーンのアオカナブンが餌を求めて木々へとやって来る。夜間はノコギリクワガタ、カブトムシ、様々な種類の蛾など、昼とは異なる訪問者たちがやってくる。